

報告とお礼

9.23「老朽原発うごかすな！ 高浜全国集会集会 -地震も事故もまったなし-」に360人が結集

大地震を目の当たりにしようと、使用済み核燃料の行き場がなかりと、核燃料サイクルが破綻しようと、「原発依存社会」に向かって暴走する政府と電力会社

本年元日の能登半島地震は、原発は地震に脆く、地震に伴って過酷事故が起これば、避難も屋内退避も困難を極めることを再認識させました。地震は「いつ、どこで、どの規模で発生するか」予知できません。8月8日の日向灘地震以降、南海トラフ巨大地震発生の可能性が高まったとされています。地震多発の日本に、原発はあってはなりません。

それでも、「原発依存社会」へ暴走する自公政権は、昨年5月末に成立させた原発推進法（「GX 東電法」）の実態化のために、「原発の最大限活用」を目指す第7次エネルギー基本計画の策定を進めています。既存原発の再稼働、40年超え運転をさらに進め、60年超え運転も拡大し、原発建て替え、新設も俎上に上らせようとしています。

一方、老朽原発依存経営の泥沼にのめりこむ関電は、原子力規制委員会から高浜3、4号機の20年間運転延長の認可を得ました（本年5月）。ウラン・プルトニウム混合酸化物（MOX）燃料を使用する原発の40年超え運転は初めてです。これで、来年には、関電の稼働可能な原発7基の中の5基が40年超え運転となります。老朽原発では、交換不可能な圧力容器の脆化が進み、点検や交換が難しい配管、送電ケーブルの損傷も進んでいます。

ところで、原発を動かすと使用済み核燃料が発生しますが、発生直後の使用済み核燃料は、膨大な放射線と熱を発生しますから、燃料プールで水冷保管しなければなりません。そのプールが今、満杯になろうとしています。満杯になれば原発を運転できなくなるため、電力会社や政府は、放射線量と発熱量が減少した使用済み核燃料を乾式貯蔵に移して、プールに空きを作ることに躍起です。

ところが、乾式貯蔵には2つの問題があります。一つは、乾式貯蔵に移すことによって出来た燃料プールの空間に、高放射線、高発熱の新しい使用済み核燃料を入れた場合、その燃料プールが崩壊すれば、大惨事に至ることです。もう一つは、乾式貯蔵に移した使用済み核燃料の行き場がないことです。関電や政府は、行き場として青森県の核燃料再処理工場の稼働を願望していましたが、8月23日、日本原燃は27回目の目の再処理工場完成延期を発表しました。再処理工場が完成する見通しはありませんから、使用済み核燃料は行き場を失ったこととなります。危険極まりなく、行き場もない使用済み核燃料の発生源・原発は全廃しなければなりません。

9.23「老朽原発うごかすな！ 高浜全国集会 -地震も事故もまったなし-」（「高浜全国集会」と略）にご参加、ご支援を頂き、ありがとうございました

9月23日、高浜町文化会館で開催された「高浜全国集会」（主催：老朽原発うごかすな！実行委員会）には、関西、福井、石川、富山、愛知、岐阜、首都圏、四国など全国から約360人のご参集を頂き、原発現地で「老朽原発うごかすな！」の大きな声を挙げる事ができました。拍手の多い、活気溢れる集会でした。

なお、高浜原発北ゲート前での前段行動には、180人のご参加をいただき、断固としたシュプレヒコールと申し入れによって「老朽原発」にしがみつく関電を糾弾しました。

皆様のご参加、ご助力に心より感謝申し上げます。

「高浜全国集会」は、13時より、小浜市議会議員の世戸玉枝さんの司会により開会しました。

主催者挨拶で中島哲演さんは、「今や福井県議会の自民党会派の県議すらも、3基の老朽原発の即時停止を関電に要求している。杜撰なロードマップが破綻したにも拘らず、関電は老朽炉を停止するという約束を履行しないから」と指摘し、「来る総選挙で、原発依存・回帰の保守政権を退場させよう」と結びました。

次いで、前日の豪雨を押し珠洲市から駆け付けられた志賀原発廃炉訴訟原告団長の北野進さんが「能登半島地震を教訓に原発全廃を！」と題した講演で、かつての原発建設予定地で国内最大級の内陸地殻内地震が発生し、世界にも例を見ない規模で地盤が隆起したことを指摘し、聞く者をして「地震大国日本

に原発はあってはならない」こと、「珠洲原発の建設を阻止した運動が大惨事を回避させた」ことを再認識させました。

福井地裁で「原発は地震に耐えられない」として原発を止めた裁判官・樋口英明さんは、原発の本質を、極めて簡潔に、①人が管理し続けないと暴走する、②暴走したときの被害は想像を絶するほど大きい装置であるとし、このような装置は、原発以外にないことを理解することの大切さを強調された。

核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会事務局の中道雅史さんは、青森からビデオメッセージを寄せられ、むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設が稼働すれば、原発の再稼働、新設につながるとし、使用済み核燃料の青森への搬入を許さない決意を述べられました。

原子力発電に反対する福井県民会議事務局の石地優さんは、使用済み核燃料乾式貯蔵の問題点を述べ、乾式貯蔵は、県内永久貯蔵、原発延命につながることを指摘しました。

なお、使用済み核燃料問題について、本集会主催者が、後日、高浜町への申し入れを行うことが提案され、承認されました。

続いて、原発再稼働の攻撃に曝されている全国の原発現地より寄せられた3件のビデオメッセージが上映されました。女川原発現地からは、さよなら原発みやぎ実行委員会の多々良哲さんが、東日本大震災で被災した原発の再稼働の無謀を訴え、活発な反対運動を紹介しました。柏崎刈羽原発現地からは、規制庁・規制委員会を監視する新潟の会の桑原三恵さんが、2007年の中越沖地震で被災し、東日本大地震以降、長期停止していた原発、使用済み核燃料を増やし続ける原発の再稼働阻止を訴えました。一方、島根原発現地からは島根原発3号機訴訟の会の芦原康江さんが、12月予定の再稼働絶対阻止を訴えました。

老朽原発うごかすな！実行委員会の橋田秀美さんは、カンパの願いをし、12年間続けた若狭でのチラシの各戸配布（愛称「アメーバデモ」）の中で感じた若狭の人々の反応の変化を紹介しました、参加者の心に響くものでした。

プラカードアクションに続いて、原発住民運動福井・嶺南センター事務局の山本雅彦さんが「敦賀原発2号機の廃炉を求め」と題する特別報告を行いました。

ふるさとを守る高浜・おおいの会の宮崎宗真さんは、おおい町では「国防婦人会」張りの団体が、原発推進の立場を教育現場にまで持ち込んでいる現状を紹介しました。

大型バスで駆け付けた名古屋からは、老朽原発40年廃炉訴訟市民の会の草地妙子さんが、名古屋地裁で2016年から続け、本年7月に結審した「老朽原発の運転認可取り消しを規制委に求める訴訟」に関して「公正な判決を求めよう！」と訴えました。

若狭の原発から30km圏内にある若狭湾沿岸、京都府北部の住民のみなさんを代表して、国内最古の原発の立地・高浜町の東山幸弘さんは、使用済み核燃料搬出に関して昨年10月に関電が示した「ロードマップ」が破綻した今、「原発を止めて、核のゴミを増やすな！」とし、舞鶴市市議員の小西洋一さんは、「若狭湾の老朽原発の稼働は、8万舞鶴市民の問題。老朽原発全てを廃炉！」を強調しました。京都地方労働組合総評議会議長の梶川憲さんは、「京都は、原発の電気の消費地でもあるが、被害地にもなる。福井、京都、近畿の働く仲間の団結で、原発を全廃しよう！」の決意を述べられました。

次いで、本集会には全国23の団体、個人から連帯メッセージが寄せられたことが、司会から紹介されました（プログラム・メッセージ冊子として配布）。

最後に、集会宣言（後述）が提案され、満場の拍手で採択されました。

力強いシュプレヒコールによって締めくくられた集会の後、参加者は、約1時間の町内デモに出発しました。あたかもフランスデモの様相を呈した町内デモには、多数の町民からのご声援を頂きました。声援の数は、集会を行うごとに増えています。

高浜全国集会集会、前段行動、町内デモの詳細は、STOP原子力★関電包囲行動のためき御膳さんがYouTubeにUP下さっています。是非ご覧ください。

(集会)https://youtu.be/qZN0W_4cASY?si=sMyLFDG1a1FQs-bU

(デモ)<https://youtu.be/drAgTAeZBos?si=yoimXvaJK0TtH7F3>

2024年9月26日

老朽原発うごかすな！実行委員会
連絡先 090-1965-7102 (木原)

**「老朽原発うごかすな！ 高浜全国集会
-地震も事故もまったなし-」 集会宣言**

福島第一原発事故の現地は、未だに「原子力緊急事態宣言」下にあり、復旧とは程遠い状況にあります。また、本年元日の能登半島地震は、原発は地震に脆く、地震に伴って過酷事故が起これば、避難も屋内退避も困難を極めることを再認識させました。地震は「いつ、どこで、どの規模で発生するか」予知できません。8月8日の日向灘地震以降、南海トラフ巨大地震発生の可能性が高まったとされています。南海トラフ巨大地震が起これば、連動して、各地の断層が動くとも考えられます。地震多発の日本に、原発はあってはなりません。

なお、原発を推進してきた原子力規制委員会でさえ、去る8月28日、活断層の真上（まうえ）にたつ敦賀原発2号機の再稼働審査で、「不合格」案を了承しています。

それでも、「原発依存社会」へ暴走する自公政権は、昨年5月末に成立させた原発推進法（「GX 束ね法」）の実体化のために、「原発・再エネの最大限活用」を進めるとする第7次エネルギー基本計画の策定を進めています。既存原発の再稼働、40年超え運転をさらに拡大し、60年超え運転、原発建替え、新設も俎上に上らせようとしています。

脱原発に向かう世界の流れへの逆行です。

一方、老朽原発依存経営にのめりこむ関西電力（関電）は、本年5月、原子力規制委員会から高浜3、4号機の40年超え運転の認可を得ました。MOX燃料を使用する原発の40年超え運転は初めてです。これで、来年には、関電の稼働可能な原発7基の中の5基が40年超え運転となります。高浜1、2号機、美浜3号機は、もうすぐ50年超えの超老朽原発です。老朽原発では、交換不可能な圧力容器の脆化が進み、点検や交換が難しい配管、送電ケーブルの損傷も進んでいます。老朽原発運転の暴挙を許してはなりません。

ところで、原発を動かせば、使用済み核燃料が発生しますが、発生直後の使用済み核燃料は、膨大な放射線と熱を発生するため、燃料プールで水冷保管しなければなりません。そのプールが、今、満杯になろうとしています。満杯になれば原発を運転できなくなるため、関電や政府は、放射線量と発熱量が減少した使用済み核燃料を乾式貯蔵に移して、プールに空きを作ることに躍起です。出来た空間に新しい使用済み核燃料を入れた燃料プールが崩壊すれば、大惨事に至ります。

乾式貯蔵に移した使用済み核燃料の行き場はありません。関電や政府は、使用済み核燃料の搬出先として、青森県の核燃料再処理工場の稼働を願っていますが、日本原燃は、8月23日、27回目の再処理工場の完成延期を発表し、完成の見込みはありません。

関電に、「使用済み核燃料の中間貯蔵地を2023年末までに福井県外に探す。探せなければ老朽原発を停止する」とした2021年の福井県知事との約束の完全履行を求め、老朽原発の即時停止を執行させ、使用済み核燃料の発生源・原発を全廃しましょう！

今、世界は原発縮小、自然エネルギーへ向かっています。自然エネルギーのみを利用すれば、燃料費はほぼゼロですから、コストは原発に比較して圧倒的に安いのは当然で、地球環境の保全にも有効です。また、自然エネルギーは、供給が国際情勢の影響を受け難い自前のエネルギーです。大地震が発生しても過酷事故に至ることもありません。このような視点からも、原発依存の理不尽は明らかです。

本日、高浜町に結集した私たちは、目先の経済的利益のために奔走し、能登半島地震を目の当たりにしても「原発依存社会への暴走」「原発推進経営」を止めようとしめない政府や関電を断固として糾弾し、原発全廃の大きなうねりを出現させ、自然エネルギーのみの利用で成り立ち、人が人間らしく生きていける社会の構築に向けて力強く前進することを宣言します。

2024年9月23日

9.23「老朽原発うごかすな！ 高浜全国集会 -地震も事故もまったなし-」参加者一同

40年超え運転原発の停止求め全国集会
高浜で市民団体

市民団体「老朽原発うごかすな！実行委員会」は23日、高浜町文化会館で40年を超えて運転している関西電力美浜原発3号機、高浜原発1、2号機の停止を求め、高浜全国集会を開いた。

参加者300人は集会に先立ち高浜原発周辺で抗議活動を展開し、美浜原発3号機と高浜原発1、2号機の稼働断念を求める申し入れ書を関電側に手渡しした。集会では石川県珠洲市の住民で北陸電力志賀原発の廃炉を求めている北野進さんが講演した。

北野さんは2023年3月に原子力規制委員会が「志賀原発敷地内に活断層はない」とする北陸電力の評価は妥当と判断したことについて「能登半島地震の知見を踏まえていない」と指摘。「能登では豪雨被害が起きた。自然災害で手いっぱいなのに、原子力災害が同時に起きたら対応できない」として原発の全廃を訴えた。（本田英寛）

2024年9月24日 日刊県民福井、中日新聞

「老朽原発止めろ」
廃炉求めて集会
高浜で市民団体

営業運転開始から40年以上経過する関西電力高浜原発1、2号機などの廃炉を求め、市民団体が23日、高浜町で集会を開いた。京都府や愛知県などから計360人が参加し、「老朽原発今すぐ止めろ」と声を上げた。

2015年に福井地裁で高浜原発3、4号機の運転を禁じる仮処分決定を出した元裁判長の樋口英明さん（72）が講演し「老朽化すれば、いつどこで不具合が生じるかわからない。管理し損なった時の被害はとてつもなく大きい」と訴えた。

2024年
9月24日
福井新聞

石川県珠洲市在住で、北陸電力志賀原発（同県志賀町）の運転差し止め訴訟の原告団長を務める北野進さん（64）も登壇。能登半島地震で防災無線や放射線防護施設が使用できなくなった事例を紹介し「これらを能登固有の問題にしてはならない。自然災害と原発事故が重なる複合災害の想定は甘く、原発は全廃すべきだ」と述べた。

集会前、高浜原発前で集会参加者が関電社員に高浜原発などの即時廃炉を求める申し入れ書を手渡した。



「老朽原発うごかすな」実行委員会主催が23日、高浜全国集会（実）福井県高浜町で開かれた。県内外から約360人が参加した。参加者は、すべての原発をなくす大きなうねりをつくり、自然エネルギーへの転換に前進しようとする集会宣言を拍手で確認。デモ行進で、すべての原発廃炉と声を上げた。関西電力の原発7基が立地する同県内では、運転開始から40年を超えた同社の老朽原発の運転延長が相次ぎ、高浜1、2号機と美浜3号機が今年48、50年に。来年は高浜3、4号機も40年を超えるため、20年の運転延長が認可されています。

原発なくすうねりを

福井・高浜町全国集会・デモ

主催者を代表して中野哲彦氏が「総選挙で原発依存・回帰の保守勢力を退場させよう」と呼びかけ、元裁判官の樋口英明氏が講演を行いました。

日本共産党の藤野やすみ衆院北陸信越比例候補と小柳茂臣衆院福井2区候補が紹介され、拍手に包まれました。

石川県珠洲市で原発建設を阻止した住民が、能登半島地震について報告。原子力施設が立地する青森、宮城、新潟、鳥根の各県からのビデオメッセージが紹介されました。

運転で増え続ける使用済み燃料を青森県六ヶ所再処理工場などに搬出する関電の工程表が、同工場の完成年度目標延期で破綻し、高

2024年9月24日 しんぶん赤旗



高浜原発北ゲートに向かうデモと前段集会



9.23 高浜全国集会



高浜町内デモ